

古着伝言板

2003年6月19日



ファイバースサイクル・ネットワーク

〒232-0017 横浜市南区宿町2-40 大和ビル101

FRN

Tel: 045-710-6507 Fax: 710-6508

<http://jimfiber.hoops.livedoor.com/> <mailto:jimfiber@livedoor.com>

事務所オープン: 月~金 11:00~16:00

2003年FRN報告会を終えて

2003年3月29日(土)

原稿を書くにあたり、報告会の様子を思いうかべながら、昨年一年間の活動を振り返ってみました。

大変暑い夏でしたね! 6月の十周年記念シンポジウムと7月の岡崎研修旅行を挟んで、春と秋のリサイクルきものフェア、和布手作り講習会数回、そして皆さんに配布しました十周年記念誌「FRN物語」の作成。運営委員をはじめとする各地区の方や沢山のボランティアの方々にご協力を頂いて、忙しい一年でしたが、無事に報告会を迎えられたという思いでした。

今年の報告会の会場には、いつにも増して手作り作品が沢山展示され、大変賑やかでした。第一部の各報告も滞りなく終わり、休憩を挟んで第二部では、4つの地区連絡会から日頃の各地区での活動を発表して頂きました。毎年、報告会の折りに作成している地区活動報告集だけでは伝えきれない事が、発表の中で詳細を知る事が出来て、大変良かったと思いました。

発表地区の一つ茅ヶ崎地区連絡会では、行政回収も始まって3年目に入り、地区の回収量も減って来ている事などから、地区活動を続けて行くか否かを、この1年で話し合っていくとの事でした。しかし、回収量が減って来ているのは、どの地区も同じではないでしょうか? 行政回収の始まりもあると思いますが、やはり冬物中古衣料など回収出来ない品目が増えたことも大きく影響していると思われます。ただ、これからの私達の活動は、回収をベースにしながらも、回収量だけにとらわれるのではなく、FRN全体、又は地区独自の工夫と発想などで活動を続けて行くことも、大きな意義があるのではないのでしょうか。

又、今年の報告会には、早稲田大学の4年生、小柄で笑顔がとてもチャーミングな富田さんと、同大学院生の長身の好青年、下村氏も出席しました。布の事を調べていた下村氏がホームページでFRNの事を知り、布のおもしろさに深〜く興味を持ったのがきっかけらしく、是非、綿S倶楽部の中野社長にもお会いしたいとの事からでした。

報告会が終わり事務所に戻ってからも、中野社長や服部代表の話を真剣な眼差しで聞き入っているお二人を拝見していて、循環型経済社会を構築するための若い芽がここに育とうとしているのかな…? と、温かいものを感じた日でもありました。

副代表 赤岡清子

綿 'S 倶楽部 感謝の集い

—神奈川新聞社の地域社会事業賞受賞による—

服部 孝子

10年目の「賞」

FRN活動を始めて10年目の節目に、昨年(2002年)11月23日に神奈川新聞社の「地域社会事業賞」を頂くことが出来ました。このことは既に報告させて頂きましたが、この活動がここまで続けられたことは、事業者の協力があつたからこそ、出来たことだと感謝したことでした。けれども、この「賞」は、市民活動に対しての「賞」ですので、いくら同じテーブルについて、志を同じくして活動していても、事業者には出してもらえない「賞」なのです。

この「賞」を頂く以前に頂いた賞は賞状の他には盾とか時計だけでした。ところが今回は、何と「げんなま」で30万、頂いたのです。びっくりするやら、戸惑うやら、嬉しいやらが混在してしまい、セレモニーとレセプションが終わった後、お茶も飲まずに先ずはともあれ、事務所に帰って来てしまいました。

その後、運営委員会に諮り、FRN運動は市民と事業者が一緒になり、同じ目的をもって進めないと成立しないことを確認し、事業者は「賞」の対象外と言うことであれば、私たちが感謝の気持ちを表わす会をしましょうと決まりました。

感謝の集いの準備

「集い」は食卓を囲み、膝を付き合わせて話し合えるようなリラックスした雰囲気をつくる必要があること、形で残る感謝状を差し上げる、記念品にはFRNのエコバッグと10周年の記念誌(FRN物語)、お土産にはお菓子ということが決定しました。勿論、業者さんは御招待ですから会費は頂きませんが、市民側は実費を出すということで準備を進めました。賞状はパソコンで、ケースもプラスチックですが金粉を散らし、なかなかの出来映えでした。お菓子は横浜の「かおり」でおしゃれに調えました。

大雨の「感謝の集い」

3月1日(土)中華街の「永華楼」で開催された「感謝の集い」は大雨でした。10年前の設立の時も大雨でした。雨にもめげずに出席して下さった業者さんは「賞状は始めて、孫に自慢できる」と大喜びでした。

当日は、参加者が「菊」「杏」「蘭」の3つのテーブルに分かれて、思い思いに語り合いました。それぞれのテーブルで、どんな話題で盛り上がったのかをご紹介します。

菊

この大雨は最近FRNにごぶさたしてるワタシがめずらしく参加するせい…?などとちょっと後ろめたく思いつつ、中華街のお店の会場に向かいました。座るよう促されたのは、服部代表や綿's倶楽部代表の中野さんが座っている真中のテーブル。FRN創立の頃からお付き合いさせてもらってる中野さんですが、古着だぶつき状況になってからは、いつもどこか表情が固くて、底なしの(多分)お酒も肝臓の心配があるのか、あまり美味しそうに召し上がってないなあ、とと思っていたものでした。でもこの日は、「感謝の集い」ということで、綿's倶楽部の皆さんに服部代表からすてきな感謝状が渡され、中野さんの表情も心なしかなごやかに見えました。「紹興酒は悪酔いしないよ」と言われて、そうだったんですかあ、と調子に乗って他のテーブルの分まであけてしまいました。10年たって、コープの組合員の状況も変わってきてるけど、コープとしては、組合員の自主的な活動としてしっかり支援していきたい、とかいうお話をさせていただきましたが、これからもこんな感じの市民活動と事業者のいい協力関係が続けられるといいなあ、と思いました。

コープかながわ 環境推進室 庭野 陽子

杏

当日はあいにくの大雨でしたが、感謝会は和やかな内に開かれました。FRNが誕生して10年という節目にこうした会を持たれた事は大変意義深いものがあると思います。

綿'S倶楽部の方から、日頃回収の中で、地域的に道幅が狭い所での作業や予定時間どおりに廻れないといった苦労話や、MM21地区のビルの基礎の中には相当の古着が投入された話などは初耳で、場が大変盛り上がったのは当テーブルだけだったようでした。

感謝状を差し上げた事で、業者さんの中には家族に自慢出来るんだと誇らしげに話された言葉が心に残りました。

横浜消費者の会 鈴木芳子

蘭

私達のテーブルでは、横浜繊維さんと石川さんのお二人の業者さんとお話しができました。回収が一番困ることは?とお聞きしましたら、狭い道路では回収の時に車が入ってくると、いったん出て又回収拠点に戻ってくるので時間がかかること。又、雨の対策ができず濡れてしまうこと、など位かな…とおっしゃっていました。

今日の会やFRNからの感謝状には、とても喜んでいらして、今後も私達と共に活動が続くことに期待をしていただける様子でした。

中区地区連絡会 黒柳市枝

会場の展示風景と作品について

井上双美

会場となった、「フォーラムよこはま」の交流ラウンジは、広いスペースでゆったりと机と椅子が配置され、利用する人達がゆったり作業したり話したりできる、静かな場所です。その入り口近くに展示用スペースが設けられています。ここは絵画や写真など壁面を使って展示できる用具が整っています。ここに、打ち掛け、エコバックのリメイク作品を並べ、見せることにしました。

ジーンズの裁ち残しの布を利用して作ったエコバック。無地で無愛想な気がするのかわ、ちょっと人気がありません。そこで、使う人に、その人なりのオリジナリティを加えて“オンリーワンのバック”にしてみたら！と提案し、昨年秋の「リサイクルきものフェア」で作品を募集し、展示しました。そして今回の催しで新たに加わった作品も含め、20点以上のリメイク作品がここに並びました。

皆それぞれの個性がある作品ですが、まとめてみると3つのタイプに分けられるようです。そのタイプとは、



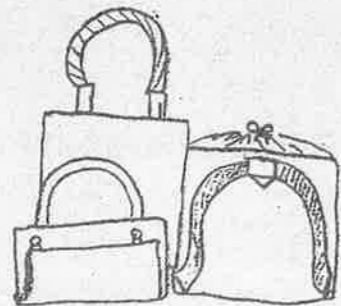
①ポケットをくっつける…

手持ちのかわいいポーチ、コースター、レース編みを付け、ケイタイや切符などが入る小さいポケットに。又、和布やジーンズで大きいポケットにする。



②アプリーケで飾る

これはもう、かわいく、かっこよくを追求。立体的に作った布の花を飾る、布をフワフワと巻き付ける、オリジナルキャラクターをアプリーケ、きれいなリボンなどをつける。

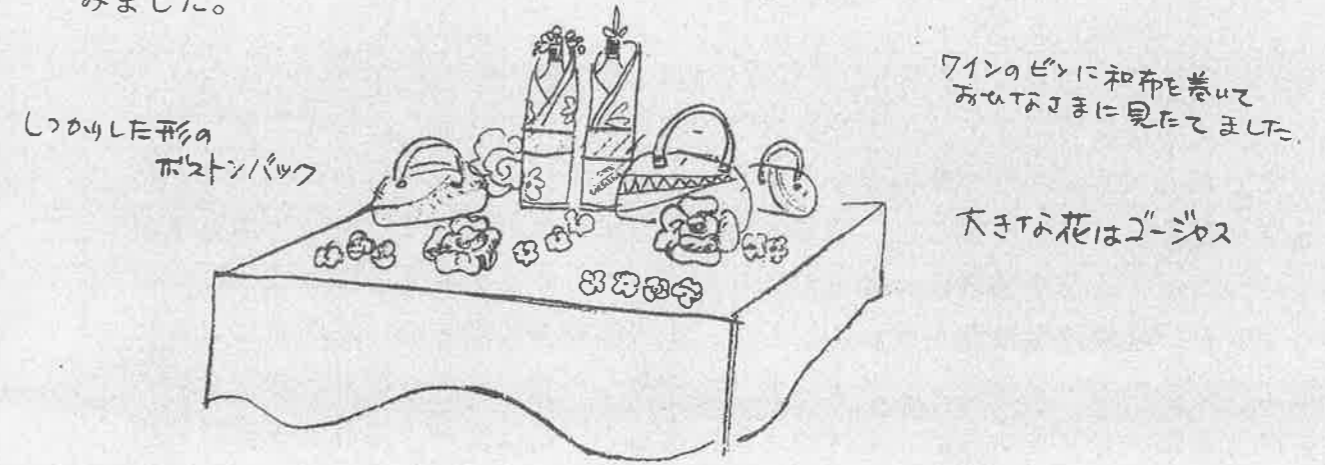


③作り変え進化させる

内袋をつけてひもで開閉させ、中が見えないように。持ちてを伸ばして肩掛けひもにする。半分に折って小さく使う。肩ひもを作って“リュックに変身”という力作も…

スペースの中程に、和服のリメイク作品を展示しました。帯から作ったボストンバック、FRNオリジナルの和布のブローチ（講習会でも人気！）を飾りました。着物地の絹だけでなく、ゆかた、ハンカチ、ネクタイなど色々な素材を使って作った“花のブローチ”をたくさん並べました。

「春ですねエ」という雰囲気もだそうと、このコーナーには“おひなさま”も飾ってみました。



しつこくした形のボストンバック

ワインのビンに和布を巻いておひなさまに見てました。

大きな花はゴージャス

もうすぐ春ですねエ

—思いがけない国際交流—

服部孝子

FRN創設以来、初めて（財）横浜女性協会の「フォーラムよこはま」の展示室で2月25日（火）～3月3日（月）の1週間、アイデアコンテストを終えたエコバックを中心に展示することが出来ました。2日目の26日（水）には古布を使った「花のブローチ」の講習会を交流ラウンジで開催しました。

おりしもと言うか、ちょうどと言うのかジャイカによる研修者が8名（ラオス…2名、カンボジア…1名、バングラディッシュ…2名、フィリピン…3名）来浜中で一緒に講習を受けたいとの希望があり、お受けしました。簡単に出来てちょっとおしゃれな「花のブローチ」は彼女達にも無理なく出来、早速胸に飾り「これは女性の起業のために使える」と大変喜んでいました。

この日、彼女たちは素敵で民族衣装を着ていました。彼女たちが民族衣装で正装してくるとは事前に伺ってはいたのですが、鮮やかな原色のサリーはとても美しいものでした。私たちは正装ではなく、リサイクルしたものを身にまとい、布を大切にしていることをPRしました。

私がサリーの着方をお尋ねしたところ、きわどいところまで脱ぎ、着方と言うより、巻き方と言う方が当たっている方法を教えて下さいました。6メートルぐらいもある1枚の鮮やかな布で、足首まであるスカートとブラウス(?)になりました。お国では、このロングの衣装でスカートの部分に家の鍵をぶら下げて野良仕事をするとのことでした。時ならぬファッションショウに、他の講習を受けていた人達も共に盛り上がり、賑やかな国際交流が出来た一時でした。

共に考え・話し合い・創りだした

春のリサイクルきものフェア

2003年4月22日(火)

実行委員長 志沢希久子

晴天に恵まれた当日は、870名のお客様の熱気が会場にあふれていました。

春のリサイクルきものフェアは市民参加型の催し物として定着し、今回で9回目となりました。半年がかりで準備した、きもの・帯・小物・はぎれは、7500点余り。

日常の仕分け、値札つけなど、準備の段階から実行委員とボランティアの方々が心を一つにして作業を積み重ねてきたことがチームワークの良さとなり成功につながりました。会場設営は回を重ねるごとに、実行委員会の話し合いも活発になって創意工夫がされています。レンタルの備品も充実して買いやすくなり、お客様からも好評でした。マネキン人形に着付けされたきもの、帯は次々に売れて着付けの担当はうれしい忙しさでした。

入り口のところに「リメイク作品の展示コーナー」を作りましたが「早くいれてほしい」と待っているお客様のために、展示品と売り子が着ているリメイク作品の紹介を試みました。次回はお客様の作品の紹介などもあると楽しさは倍増でしょう。

締め役割の会計は、準備段階の打ち合わせの重要性と担当する人の統一の理解が不可欠です。より習熟した会計のシステムを作り出すのは今後の大きな課題です。

循環型の社会づくりとしての重要な催し物を継続し、さらに発展させたいものです。

さき布ぞうり講習会担当 長田みち子

天候に恵まれ、出足好調の中、ぞうり講習も無事終える事が出来ました。

何回か回を重ねる毎に、講習を受ける人の熱心さが、ひしひしと伝わって来て、腰の痛さも足や手指のつれるのも忘れて、何とか時間内に一足を仕上げさせてあげたいと思うのです。

出来上がった時の喜びようは、子供のようです。そして私たちも共に作品の良し悪しにかかわらず、嬉しいのです。

今回も皆さんのお力をお借りして、午前・午後と大声を張り上げ、埃にまみれながら、終了近くになると声もかすれ頑張りました。責任者の黒柳さん、北本さんをはじめ、横山さん、千葉さん、有難うございました。

はぎれ・反物・小物コーナー担当 大木麗子

沢山の人達が布を手に真剣な様子に、つい「何になさるの？」
「人形」「小物」「だんだん古布が手に入りにくくて…」

様々な声のとびかう中、圧倒されたり、びっくりさせられたり、
永い時を経て今ここに又どんな命をふきこんでもらえるのか古布達！
との思いでいっぱいの日でした。

記録写真を担当して

大手 敏

デジカメとインスタントカメラを首からぶら下げて、会場をうろうろしながらシャッターを切っている素人カメラマン。どうせ素人が撮った写真なのでそんなに旨く撮れるわけない、と妙に開き直った気分でも今回も写真担当を引き受けました。

写真の第一の目的は、会場に荷物が運ばれてくるときから、会場作りの様子、当日の会場の様子、後片付けまでの状況などを記録し、次回の開催企画時に参考にする事です。お客さんが入る前に撮影できる準備の段階や陳列の様子の撮影は何とか格好が良かったと思っています。しかし、混雑状況、お客や販売員の様子などとなると人の動きが激しいため、シャッターチャンスが捕まえにくく、これぞという瞬間も自動シャッターの遅れ時間のため、動いてしまったり、邪魔が入って、なかなか旨くいかなかった。

第二の目的として、着物をリフォームした素敵なお洋服を着ている方を捉まえて写真を撮らせてもらうことで、ちょっとテレながらも快く撮らせてくれる方とイヤダーといって逃げていってしまう方といました。ただ、私に見る目がないのでチャンスも沢山逃していると思われれます。こちら辺は良く分かる方がフォローしてくれるとありがたいですね。

《お知らせコーナー》

〔内部学習会〕

日時 : 6/30(月) 10:30~12:00
講師 : 中野聡恭氏 (綿'S倶楽部代表)
会場 : 大和ビル 2F 会議室

内容 ①FRNの回収と行政回収の違い
②なぜ回収できるものが限定されるようになったのか
③「横浜エコ・リサイクルポート構想」について

3月末ようやく完成して、回収拠点の皆さんやご協力いただいている方々にお配りしましたFRN創立10周年記念誌「FRN物語」、隅から隅まで読んでいただけましたか?「これを一冊読むと、FRNのことが全部よ〜く解る」と好評です。関係者以外の方で希望される方には、一冊千円(送料別)でお分けしています。FRN事務所までお問い合わせください。

〔予告〕

「ファイバーリサイクルネットワークの布あそび展」

9月30日(火)~10月6日(月)
フォーラムよこはま 交流ラウンジ
(ランドマークタワー 13F)

手作り講習会 10/3(金) 10:30~12:30
13:30~15:30

第10回 「秋のリサイクルきものフェア」

11月18日(火) 10:00~16:00
かながわ県民センター 1F 展示室

